

指導の狙い 伝記を比べて読み、優れた叙述を多面的に捉えたり、自分の考えを深めたりする。

問題の概要

- B③一 二つの伝記を比べて読み、登場人物の心情を表している言葉や文を抜き出して書く。
B③二 二つの伝記を比べて読み、それぞれの書き手を適切に選択して書いたり、植村直己を表す言葉をそれぞれ抜き出して書いたりする。

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C読むこと ウ オ

授業アイデア例

例1 は出題した内容を取り立てて指導する例

例2 は出題した趣旨を踏まえ単元化して指導する例

例1 自伝(書き手:本人)と評伝(書き手:第三者)とを比べて読み、書き手や書き表し方の特徴を捉える。

- 1 自伝と評伝とを比べて読み、同じような場面を描写している箇所を対応させた上でラインマーカーを引く。

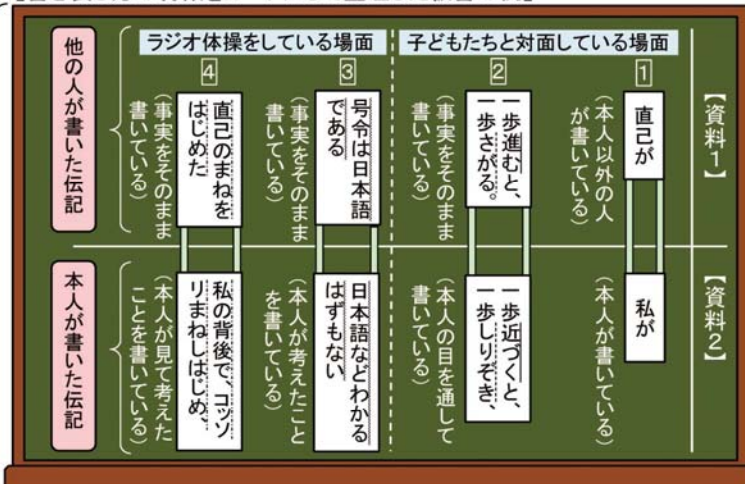
例:平成23年度調査B③「植村直己」の2作
【資料1】、【資料2】

- 2 ラインマーカーを引いた箇所の中で、同じような内容についての描写を簡潔にカードに書き出す。

- 3 人物の行動や心情の描写に注目して、サイドラインを引きながら、自伝と評伝の違いについて話し合う。

- 4 自伝と評伝の書き手の違いや書き表し方の特徴についてまとめる。

【書き表し方の特徴をカードにして整理した板書の例】



人物の呼び方に着目すると、「私が」(一人称)と「直己が」(三人称)という表現のちがいを発見することができ、書き手である人物が分かります。

人物の行動や心情の描写としては、自分が見たり考えたりしたのか、他者が見たり考えたりしたのかという視点のちがいによって表現は変わります。

例2 伝記を比べて読み、書き手の違いによる人物の見方・考え方などをまとめて交流する。

第一次

- これまでに読んだ伝記の中で心に残っている人物について話し合う。
- 自伝や評伝などの違いや、評伝でも複数の書き手が存在することを話し合う。
- 学習課題「伝記の書き手のちがいによる、人物の見方や考え方、エピソードの取り上げ方のちがいを比べて読もう」を設定し、学習計画を立てる。

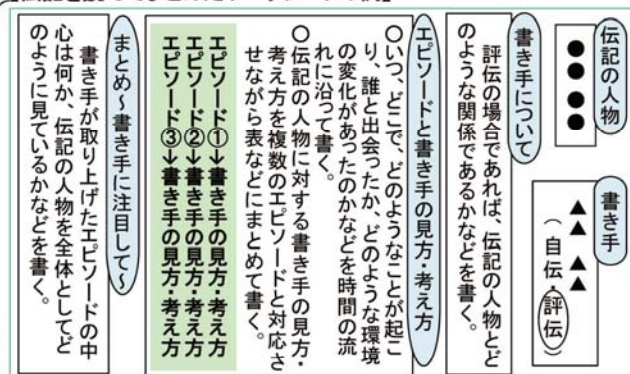
第二次

- 興味のある人物ごとにグループを作り、書き手の違う伝記を分担して読み、伝記の人物についてのエピソードや、書き手の見方・考え方などをワークシートにまとめる。

第三次

- ワークシートにまとめた内容を、グループや全体で交流する。
- 伝記の人物を捉えるために書き手に注目して読んだり、自分の知識・経験などと重ねて評価しながら読んだりすることが大切であることをまとめる。

【伝記を読んでまとめたワークシートの例】



【書き手の違いに注目した読み方の工夫の例】

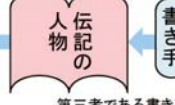
①自伝(書き手:本人)

自伝は、本人が書いたものなので、自分も同じような気持ちになって、書き手と対話するように読み進めることができます。



②評伝(書き手:第三者)

評伝は、書き手と伝記の人物の関係や、書き手の見方・考え方に気を付けながら読み進めることが大切です。



第三者である書き手

留意点

伝記は、エピソードを物語るために文学的な描写が用いられるだけでなく、人物の生き方などを評価するために説明の表現も用いられるという特徴がある。そのため、「説明的な文章」と「文学的な文章」のそれぞれの読むこととの能力が必要となる。伝記の表現方法の特徴は、小学校学習指導要領解説国語編(平成20年告示)の〔第5学年及び第6学年〕の「B書くこと」の言語活動例で取り上げている「随筆」の表現方法と共通性がある。伝記を読むことを通して学んだ表現方法を、随筆を書くことに活用できるようにすることが重要である。